

令和3年度M I E職員カアワードにおける部門賞・グッドパフォーマンス賞の受賞取組概要

【改善活動分野】

募集部門	部局名	活動テーマ	グループ名	取組概要
協創推進部門	防災対策部	同じ釜の飯を食う仲間と共に。緊急消防援助隊三重県大隊出動！	緊急消防援助隊三重県大隊	被災地に向け迅速出動する緊急消防援助隊員は、現地で活動するために必要な食料を急いで出動車両に積載して出動しますが、メニューや調理方法が異なる食料を持参するため、後方支援隊員の大きな課題となっていました。 この課題を解決すべく全国の取組を調べ中、生協との間で食料供給に関する協定を締結し解決を図っている他県の事例がありました。そこで、三重県生活協同組合連合会に相談したところ、本内容に快くご賛同いただき、令和3年3月29日、全国4例目となる協定を締結しました。 被災地で活動する隊員に安定した食料を供給することで、疲労回復や士気向上により現地で存分に力を発揮することができます。 今後も、検証を行いながら改善を図り、住民の安心・安全を守ります！
職員セレクト賞				
デジタル活用部門	環境生活部	みんなでえがおに！三重県食品提供システム「みえ〜る」の運用	三重県環境生活部廃棄物対策局廃棄物・リサイクル課	三重県では食品ロスが年間約8万2千トン発生・廃棄されている一方で、コロナ禍により食べる物が無く困っている生活困窮者が増えています。 そこで、食品ロスの削減と生活困窮者の支援の同時解決を図る事業として、提供者である食品提供事業者と、受取者であるフードバンク活動団体等とをweb上でマッチングする三重県食品提供システム「みえ〜る」を開発し、令和3年7月に運用を開始しました。 令和4年2月17日時点で51事業所が参加し、123件のマッチングが成立し、食品ロスになる前の規格外品や更新後の災害備蓄食品等、約3,500kgもの食品が提供・受取されています。
ワーク・ライフ・マネジメント部門	デジタル社会推進局	班まるごと在宅勤務による感染拡大防止対策で新しい働き方を実現	スマート改革推進課市町連携班	・新型コロナ第5波における感染拡大防止対策のため、在宅勤務を徹底して実施し、9月は班の在宅勤務率94%を達成しました。 ・上司の理解などをベースにしながら、Web会議やビジネスチャット、電話の転送設定など、ツールをフル活用しました。 ・令和2年度から実施してきた、ペーパーレス化やスマートオフィスなどのスマート改革の取組が、円滑な在宅勤務に直結しています。 ・市町や国等の外部の方にも、説明しなければ在宅勤務していることが気づかれられないような体制となり、県内29市町が参加する会議も、班員全員が在宅勤務しながら開催できました。 ・緊急事態宣言が解除された後も、班員の家庭状況等を踏まえて、在宅勤務を継続しています。
サービス向上部門	環境生活部	三重県パートナーシップ宣誓制度を開始しました！	ダイバーシティ社会推進課男女共同参画班	性の多様性については、性的指向や性自認が多様であることへの社会の理解不足による差別や偏見があるなどの問題が生じていることから、誰もが地域で安心して暮らすことができるよう、県でパートナーシップ宣誓制度を開始しました。この制度は、お互いを人生のパートナーとし、日常生活において相互に協力し合うことを宣誓したお二人（一方又は双方が性的少数者）に対して県が宣誓書受領証等を交付する制度です。 導入にあたっては市町の意向を確認した上で検討を進めるとともに、より使いやすい制度となるよう、利用できるサービスの充実を図りました。3か月で20件の宣誓があり、「三重県に制度ができて嬉しい」などの声をいただいています。
グランプリ				
職員力向上部門	農林水産部	牧草用作業機械の改良	畜産研究所 大家畜研究課	牧草の種まき作業の省力化を図るため、一般的に行われている耕起（土を耕す）・施肥（肥料を与える）・播種（種を播く）・覆土（種に土をかぶせる）に至る4つの作業体系を見直し、各作業を同時に実施できる作業機を開発しました。開発した作業機は、①熟練の操作技術を必要としないこと、②隣り合わせて接する畑に種子や肥料が飛散しないこと、③開発したばら播き機構を装着することで均一な種播きが可能であること、④作業時間を約80%、燃料消費量を約40%削減できることなど、種播き作業を画期的に省力化できるとともに、温室効果ガスの削減やSDGsにも寄与できる取組です。
自由テーマ部門	教育委員会事務局	地域で育つ学校「杉の子バスの店」の取組	杉の子特別支援学校	スクールバス乗降場所として駐車場を無償提供していただいている商業施設に対して感謝の気持ちを伝えたり、その施設の貢献が広く知られたりする取組がされていまして。そこで、「杉の子バスの店」という企画を立ちあげました。感謝の文言を児童生徒が書き、バスのイラストを入れたステッカーやポスター、スタンドを施設に掲示してもらった取組としました（フレームやスタンドは分校木工班が制作）。学校ホームページやPTA通信にも掲載しました。スターティングセレモニーは、鈴鹿市の商業施設で行い、新聞4社、ケーブルテレビ、FM局への報道提供により、学校の感謝の気持ちと施設の地域貢献を多くの方々に知っていただく一つの機会となりました。

【グッドパフォーマンス分野】

部局名	推薦テーマ	グループ名	推薦理由
戦略企画部	できない理由から考えずに。とりあえずやってみよう！の大切さ	消費・生活統計班 伊地田 加藤 長井	日常で、ちょっと面倒くさいけど、まあ普通にできない事もない、という業務はまああるものです。 慣れるとその面倒さが当たり前となり、敢えて変えようとは中々思えません。 ですが、このグループはフットワークが軽く、ちょっとやってみたくは誰かがアイデアを出せば、すぐ形にします。 すぐ形にしすぎるが故に上手くいかない時もありますが、その場合はこれまたすぐに元のやり方に戻しています。そして、また何か思いつければすぐに実行しています。 つまり、変える前と変えた後、どちらにも固執せずに、単純に試行錯誤の中で最適な方法を見つけているのです。 県庁は失敗を恐れず、試行錯誤を受け入れる組織であってほしいと思います。